

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成24年11月22日 (2012.11.22)

【公開番号】特開2011-85641(P2011-85641A)

【公開日】平成23年4月28日 (2011.4.28)

【年通号数】公開・登録公報2011-017

【出願番号】特願2009-236237(P2009-236237)

【国際特許分類】

G 0 9 B 19/06 (2006.01)

G 0 9 B 5/04 (2006.01)

G 1 0 L 13/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 9 B 19/06

G 0 9 B 5/04

G 1 0 L 13/00 1 0 0 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年10月10日 (2012.10.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

学習対象言語の原音声に基づいて音声出力手段から出力される再生音声を学習者が聴取し、これに従って発声を行うことにより当該言語の会話の訓練を行う語学学習支援システムであって、

a) 学習対象言語の原音声の文を取得してチャンク単位に分割して原音声チャンクを得る文分割手段と、

b) 学習者の母語における前記原音声チャンクにそれぞれ対応した意味を有する母語音声チャンクを取得する母語音声チャンク取得手段と、

c) 前記原音声チャンク及び前記母語音声チャンクに対しそれぞれ、再生時に繰り返し音がそれぞれ独立に聴取可能な遅延時間を有して所定回数繰り返すようなエコー付加処理を行うエコー付加手段と、

d) それぞれエコー付加処理された学習対象言語の原音声チャンクと母語音声チャンクとが、チャンク単位で時間的に交互に、且つ、所定の時間間隔空けた状態で音声出力されるように、時間経過に伴う出力タイミングを制御した第 1 音声データを作成するデータ作成手段と、

を備え、前記データ作成手段により作成された第 1 音声データを音声出力手段から出力させるようにしたことを特徴とする語学学習支援システム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

学習対象言語の原音声に基づいて音声出力手段から出力される再生音声を学習者が聴取し、これに従って発声を行うことにより当該言語の会話の訓練を行う語学学習支援方法であって、

a) 学習対象言語の原音声の文を取得してチャンク単位に分割して原音声チャンクを得る文分割ステップと、

b) 学習者の母語における前記原音声チャンクにそれぞれ対応した意味を有する母語音声チャンクを取得する母語音声チャンク取得ステップと、

c) 前記原音声チャンク及び前記母語音声チャンクに対しそれぞれ、再生時に繰り返し音がそれぞれ独立に聴取可能な遅延時間を有して所定回数繰り返すようなエコーを付加するエコー付加ステップと、

d) それぞれエコー付加された学習対象言語の原音声チャンクと母語音声チャンクとが、チャンク単位で時間的に交互に、且つ、所定の時間間隔空けた状態で音声出力されるように、時間経過に伴う出力タイミングを制御した第 1 音声データを作成するデータ作成ステップと、

を有し、前記データ作成ステップにより作成された第 1 音声データを音声出力手段から出力させるようにしたことを特徴とする語学学習支援方法。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

上記課題を解決するためになされた第 1 発明は、学習対象言語の原音声に基づいて音声出力手段から出力される再生音声を学習者が聴取し、これに従って発声を行うことにより当該言語の会話の訓練を行う語学学習支援システムであって、

a) 学習対象言語の原音声の文を取得してチャンク単位に分割して原音声チャンクを得る文分割手段と、

b) 学習者の母語における前記原音声チャンクにそれぞれ対応した意味を有する母語音声チャンクを取得する母語音声チャンク取得手段と、

c) 前記原音声チャンク及び前記母語音声チャンクに対しそれぞれ、再生時に繰り返し音がそれぞれ独立に聴取可能な遅延時間を有して所定回数繰り返すようなエコー付加処理を行うエコー付加手段と、

d) それぞれエコー付加処理された学習対象言語の原音声チャンクと母語音声チャンクとが、チャンク単位で時間的に交互に、且つ、所定の時間間隔空けた状態で音声出力されるように、時間経過に伴う出力タイミングを制御した第 1 音声データを作成するデータ作成手段と、

を備え、前記データ作成手段により作成された第 1 音声データを音声出力手段から出力させるようにしたことを特徴としている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

また上記課題を解決するためになされた第 2 発明は、学習対象言語の原音声に基づいて音声出力手段から出力される再生音声を学習者が聴取し、これに従って発声を行うことにより当該言語の会話の訓練を行う語学学習支援方法であって、

a) 学習対象言語の原音声の文を取得してチャンク単位に分割して原音声チャンクを得る文分割ステップと、

b) 学習者の母語における前記原音声チャンクにそれぞれ対応した意味を有する母語音声チャンクを取得する母語音声チャンク取得ステップと、

c) 前記原音声チャンク及び前記母語音声チャンクに対しそれぞれ、再生時に繰り返し音がそれぞれ独立に聴取可能な遅延時間を有して所定回数繰り返すようなエコーを付加する

エコー付加ステップと、

d)それぞれエコー付加された学習対象言語の原音声チャンクと母語音声チャンクとが、チャンク単位で時間的に交互に、且つ、所定の時間間隔空けた状態で音声出力されるように、時間経過に伴う出力タイミングを制御した第 1 音声データを作成するデータ作成ステップと、

を有し、前記データ作成ステップにより作成された第 1 音声データを音声出力手段から出力させるようにしたことを特徴としている。